

○ 本校の概要

本校は、全校生徒602名(4月7日現在)、15学級の学校です。人権尊重の精神と国際人としての資質・能力を身に付け、心豊かで生きる力をもった生徒を育成するため、「進んで学び、広い視野をもった人間を育てる」、「思いやりがあり、責任を重んじる人間を育てる」、「健康で明るく、たくましい人間を育てる」の3つの目標を掲げています。  
授業ではICTを活用し、生徒の主体的・対話的で深い学びを実現しています。また、生徒自身の能力と創造性の伸長を図るため、「体育祭」「若木祭」などの行事は生徒中心に実施しています。新型コロナウイルス感染症が感染法上の5類となり、制限が緩和されたことを受けて、教員・生徒が活躍する場を増やし、力を合わせて取り組んでいます。この中から助け合いの精神と粘り強い取り組み姿勢が育っています。そして、「歌声の響く学校」を目指します。  
PTAによる「部活動見守り」や「朝の挨拶運動」などや、スクールサポート員による「学校の環境整備」や「講師派遣」など、地域の学校として保護者・地域の皆様から多大なご協力をいただいています。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄	
								評価人数	コメント
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にやがて対応する子どもを身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3	学校教員評価で「取組内容を教員が行ったか」という項目合計で、できた・行った・活用したと答えた教員の割合	4:90%以上	活用できる英語力を育成するために、英語科教員と外国語教育指導員と連携してコミュニケーション力の育成に取り組んでいます。 職場体験では「おたのものづくり」を生かした体験を中心にしています。理科・数学では科学的・論理的な思考力の育成に取り組んでいます。 ICT機器を活用した学習を進めています。生徒達もタブレットを活用した授業に積極的に取り組んでいます。 国立ハンセン病資料館の方を招いて人権教育を行いました。 体力テストの結果を踏まえた体育の授業や体育祭・駅伝大会などを通じて、「運動に親しみ資質や能力を育てよう」取り組みました。 生徒自身で疑問を見つけ、自身で考えたり、生徒同士で話し合っ解決する授業を増やしました。 未来を生きる生徒達のため情報活用能力の向上を進めています。一人一台端末を活用するだけでなく、自分の考えを表現できるように話し合い活動も増やし「生きる力」の育成を進めています。	A	4
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3		3:75%以上			
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	3		3:80%以上			
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	2		2:60%以上			
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3		1:60%未満			
プラン2 児童・生徒一人ひとりの学び意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまづきや学習方法について、指導する。	算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3	学校生徒評価で、「授業のわかりやすさ」「意欲・関心を引き出す授業」「学力向上」等の項目における肯定的な評価の割合	4:85%以上	生徒の様子をから、困っている様子があれば声をかけて、助言を行うように心がけています。 数学ステップ学習の活用を伝え、自分たちで学ぶことができるようにしています。 学習補助員による授業の補助と放課後補習教室・土曜補習教室で生徒の学力向上を進めています。 その学年・クラスの生徒に合った授業改善推進プランを作成して実践しています。 定期考査前に各学年で放課後補習教室などを実施しています。 普段の様子や定期考査・学力調査などの結果を分析して、分かりやすい授業を各教科で行っています。補習なども定期考査前には行っていませんので生徒への呼びかけも継続していきます。	A	4
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:「学期毎に知らせた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満の教員が回答した。	1		3:75%以上			
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3		2:60%以上			
		定期考査前の質問教室や放課後補習を実施する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4		1:60%未満			
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3		1:60%未満			
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、 自他の生命を尊重する心を育成するなど、 未来への希望に満ちた豊かな心を大きく育てます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	学校生徒評価で、「人権尊重」「生命尊重」「規範意識の確立」の項目における肯定的な評価の割合	4:85%以上	小中一貫教育の日に小学校の先生と情報を共有して、9年間で指導しているように進めています。 全校体制で特別の教科 道徳の授業内容を検討して、道徳教育を推進しています。 調査や普段の様子から、心配な生徒には声かけを行い、原因があれば改善できることを共に考え、生徒が元気に過ごせることを目指して接しています。 定期的には「大田区立貝塚中学校いじめ防止基本方針」を全職員で確認して、いじめを見逃さないよう取り組んでいます。 気になる生徒に対しては必ず校内で情報を共有して、全校体制で解決策を考えていく体制を作っています。 各行事の実行委員・専門委員会での生徒の活動を推進し、自己肯定感が高められるよう各学年・学校で取り組んでいます。 貝塚中学校の生徒は毎日しっかりと学校生活を過ごしています。素晴らしいです。いろいろな場面で生徒の長所を生かせるよう今後も取り組んでいきます。	A	5
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:「学期に1回(年間3回)以上行った」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満の教員が回答した。	3		3:75%以上			
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3		2:60%以上			
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3		2:60%以上			
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておたか会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	3		1:60%未満			
プラン4 体力増進の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、 生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	学校生徒評価で、「心身の健康」「体力の向上」等の項目における肯定的な評価の割合	4:85%以上	生活習慣の啓発のため、「早寝・早起き・朝ごはん」での保健委員会の活動以外にも、生活委員の朝の挨拶運動、図書委員会の朝の読書活動など生徒が主体となって取り組んでくれています。 給食では「食べる楽しさ」だけでなく、いろいろな国の料理を味わいながら学ぶ食育も取り組んでいます。 運動習慣の確立のために、昼休みも体育館・校庭などで活動できるようにしています。 今年度は感染対策に気をつけながらも、生徒達のスポーツに親しむ時間を増やしています。	A	5
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」を推進する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4		3:75%以上			
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4		2:60%以上			
		生涯活動や学級の係・当番活動などの充実により、生徒の自己有用感を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3		1:60%未満			
		生涯活動や学級の係・当番活動などの充実により、生徒の自己有用感を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3		1:60%未満			
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、 教員の指導力向上と良質な教育環境づくりをします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	学校教員評価で「取組内容を教員が行ったか」という項目合計で、できた・行った・活用したと答えた教員の割合	4:90%以上	保護者様の意見を大切にして、より良い授業、より良い生徒指導ができるよう努めています。 教職員は校内研修と校内OUTで授業力向上を目指しています。 今年も模範授業を各教科の代表1名が参加し、教科間・校内で生かしています。 校内で毎週行われるの会議で情報を共有し、特別支援教育を推進しています。 薬物乱用防止教室を2学期に実施。不審者・津波・地震・火災などを想定した避難訓練を毎月実施し安全教育に努めています。 生徒の安全を第一に、校門の施錠、SNSについての講和などを行いました。施設利用団体の皆様にも生徒の安全を第一に施設に取組んでいただいております。ありがとうございます。	A	4
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOUTを充実させる。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4		3:75%以上			
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4		2:60%以上			
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2~3回以上行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4		1:60%未満			
		薬物乱用防止教室、不審者・津波等様々な事態を想定しての避難訓練を実施する。	4:全て実施した。 3:2つを実施した。 2:1つを実施した。 1:実施しなかった。	4		1:60%未満			
プラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2~3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	学校関係者評価における「経営方針の周知」「地域・保護者との連携」「学校への信頼度」の項目における肯定的な評価の割合	4:90%以上	ホームページの更新とまひポケットを活用した情報発信を行っています。来年度は今年以上の情報発信ができるよう取り組みます。 地域教育連絡協議会の委員の皆様は学校の取り組みを伝えていただいております。 今年もスクールサポート員(地域学校支援本部)による職場体験の確保や花壇整備・講師対応などご協力いただき大変助かっております。今年度は検定試験にもお力添えをいただいております。ありがとうございます。 保護者様・地域の皆様は貝塚中学校へのご理解・ご協力のおかげで、生徒達は楽しく学校生活を送っています。いつもありがとうございます。今後ともよろしくお願いたします。	A	4
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	4		3:75%以上			
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:学期に2~3回以上行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	4		2:60%以上			
		PTAと連携して、部活動時間の安全確保のため、必要な時間に保護者の部活動見守りをお願いする。	4:月に2~3回以上行った。 3:月に1回以上行った。 2:学期に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4		1:60%未満			
		PTAと連携して、部活動時間の安全確保のため、必要な時間に保護者の部活動見守りをお願いする。	4:月に2~3回以上行った。 3:月に1回以上行った。 2:学期に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4		1:60%未満			

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。